

＜今日の説教のポイント 使徒言行録1章12節-2章13節＞

1 ルカは使徒言行録2章の記事で何を伝えようとしたのか？

(先週のおさらい) ルカは、エマオ途上で復活の主と出会って心が燃えた弟子たちの出来事をすでに記しています。「二人は、『道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか』と語り合った」(ルカ福音書 24:32)。またヨハネ福音書 20:21-23 でもすでに、復活された主が弟子たちに聖霊を与えて宣教命令を出されています。すなわち、聖霊は五旬祭(原語:ペンテコステ)で初めて弟子たちに与えられたと考えるべきではないのです。では、ルカは使徒言行録2章の記事で何を伝えようとしたのでしょうか？

2 (2:1-13) 出来事の外見よりその中身(意味)の持つ不思議に注目。

五旬祭に起こった出来事を読むと驚かされます。しかし丁寧に読むと、その驚きは別の驚きに変えられていきます。「風」(2)と「霊」(4)、また「舌」(3)と「言葉」(4)が原語では同じであり、弟子たちが色々な外国語で語り出した内容が皆同じ「**神の偉大な業=イエス・キリストの出来事**」(11)であったのです。それらのことを知り、ルカが何を語りたかったのかを考えて行くと、外見ではなく中身、神様が私たちのためにそれをなして下さったことに対する驚きに変えられていくのです。

3 ペンテコステの意味 — 私たちに伝道が託された教会の誕生日。

五旬祭の出来事が持つ意味を考えるためには、主が昇天されてから五旬祭までの10日間の弟子たちに目を注ぐ必要があります。彼らは他の信者と共に「**心を合わせて熱心に祈り**」しました(1:14)。そしてユダに代わる弟子を神様の御旨を尊重しつつ(「くじを引く」(26)の意味)皆で決めたのです。「**主の復活の証人になるべき**」(1:22)「**使徒としてのこの任務(福音の伝道)を継がせるため**」(1:25)でした。主への信頼に満ちて次になすべきことに向かって準備していく、とても信仰深い姿ではないでしょうか。そして五旬祭の出来事が起きたのです。この出来事が持つ意味ははっきりしています。弟子たちによる伝道の始まりです。使徒たちだけでない、神様が主イエス・キリストによって示して下さった愛を知った全ての者たちで行っていく伝道の時代の開始です。そのために主イエスを頭とし、その体なる信仰者からなる教会を神様は与えて下さったのです。私たちもこの恵みに感謝しつつ、教会の礼拝で聖書の御言葉の解き明かしを受けて心燃やされながら伝道に励んで行こうではありませんか！